web版

ことぶき共同診療所だより

第 34 号

2012 年 11 月 30 日発行

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17 リバーハイツ石川町 1･2F
電話とﾌｧｯｸｽ 045-651-2305(診療所) 045-305-4322(鍼灸院・資料室)
E-Mail info@kyoudouclinic.com
http://kyoudouclinic.com

発行：医療法人ことぶき共同診療所

目 次

診療所の思いで ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 田中 俊夫 ②
気がつくと 2012 年もあとわずか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 鈴木 伸 ⑤
裂き織り始めました！ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 船崎 葉子 ⑥
今年の“大運動会” ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 加藤 靖・大塚 るみ ⑦
“診療室から”（30）－ 夏祭り －・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 熊倉 陽介 ⑨
寿町関係資料室コレクション ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寿町関係資料室 ⑩
－ 【１】「いわゆるドヤ街の福祉対策研究委員会報告書」 －
レポート － 健康格差 米国と日本 －・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 永野 優佳 ⑪
寿町地域ニュース・あらかると（’12 年 6 月～10 月）・・・ 寿町関係資料室 ⑫
診療所日誌（’12 年 6 月～’12 年 10 月）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 矢島 雅子 ⑬
共同診療所・鍼灸院ガイド・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ⑭

診療所の思いで

もう御存知の方も多いと思いますが、私は今年の3月をもって、「ことぶき共同診療所」の理事長と、院長を辞めました。もう 73 才になってしまったのが、主な理由ですが、体調がよくないのもありました。

約 17 年間にわたる診療所での生活は、一言で云って大変楽しいものでした。この間患者さんもたくさん亡くなられたし、悲しい想い出、悔しい想い出もあるのですが、まだ大半が 20 代の若い仲間達と、キャピ、キャピと作った診療所は、明るく、楽しいものでした。

毎年、山に、川に、海によく遊びに行きました。患者さんを含めての、田植、稲刈り、紅葉刈り、温泉旅行と、これが診療所(?)と思うくらい楽しいものでした。その他にも、勉強会、飲み会、出版活動、運動会、お花見等々よくやったよね。ここ迄共に働き、共に学び、共に遊んだ職員、ボランティア、関係機関の方々に、心からお礼申しあげます。

今後もまだ少しだけちょろちょろすると思いますが、あまり気にしないで下さい。大きくは、田中俊夫はおしまいになったのです。「ありがとうございました!!」(←堀内孝雄大好き。p.s.飲み会はまだ継続希望です)

田中　俊夫

2012 年 10 月吉日

気がつくと 2012 年もあとわずか

猛暑、残暑が続き、いつ夏がおわるかとおもいきや、急に冷え込み体調を崩す方が多い今日このごろですが、皆様いかがおすごしでしょうか？　気がつくと2012年もあとわずかです。「光陰矢の如し」と小学生の時に習ったのですが、その意味が身をもって感じられる年になったのだと感じます。前置きが長くなりましたが、今年の下半期の診療所の出来事を振り返って見たいと思います。

＜若い薬物の方が増えました＞

以前から診療所は薬物依存症（主として覚せい剤）の方が多く受診されています。薬物使用で服役、出所を繰り返し、高齢となり、後遺症としての幻聴、幻視、被害妄想が持続し、症状のために外出も困難な方が多く、統合失調症と同様の生活のサポートが必要な方が多い印象でした。しかし、最近、薬物を始めて年月の浅い、若い薬物依存症の方が受診されることが多くなり、この対応に頭を悩ましています。日本の薬物依存症への対応は、厳罰主義に偏っており、治療という観点は欠如しているため欧米に比べて再犯率が非常に高く 50％から 60％にも登ります。しかし、治療プログラムを受けたマイアミのドラッグコートのケースでは、プログラム終了者の再犯率はわずか6％、治療中途でドロップアウトした人の再犯率も21％とデータがあります。やはり依存症の再犯率を下げるには治療プログラムが必要です。

しかし、寿町では若年者の薬物の対応はまだ日が浅く、蓄積が少ないため、アルコールに比べて遅れをとっております。アルコールの中間施設のアルクでも、受け入れを試みたのですが、なかなか難しいとのことです。私の経験でも、いきなり NA につなげてもなかなか継続が難しい場合が多いです。しかし、幸いにも横浜には先駆け的なプログラム SMARP（スマープ）プログラムのあるせりがや病院や、ダルクなどの施設があります。こうした社会資源を生かしつつ、連携して治療を行なっていく必要がありそうです。現在も、数人がダルクへ通所したり、せりがや病院へ転院したりしながら治療を行なっており、今後こうした傾向は強まりそうです。

＜夏休みは大勢の見学者が＞

今年の夏休みは大勢の見学者が、当院を訪れました。普段も、毎月1回は、初期研修中の湘南鎌倉総合病院の方がみえるのですが、夏休みにはそれに加えて、聖路加国際病院、北里大、地元の横浜市大、愛知医大、香川大、などから大勢の方々が寿町を訪問し、ホームレス自立支援施設「はまかぜ」や、寿福祉プラザ、アルコール中間施設「寿アルク」などを見学し、生活保護や、ホームレスの医療に関して感じることや、考えたことの意見交換を行いました。現場に埋没してしまうと、だんだんと見えなくなってくるものがあるのですが、外部の方と話す中で新たな発見をすることも多々あり、自らの勉強のためにも今後も積極的に見学者への対応を進めて行きたいと思います。また、将来的に誰か一人ぐらいは一緒に手伝っていただける方がでないかと、淡い下心(笑)もあります。

北里大学看護学部4年生永野優佳さんらは、寿町を見学したのち、大学の実習プログラムでアメリカの LA にある Riverside County Mobile Health Clinic を見学に行かれました。そこでは、経済的な理由や、不法入国の為に健康保険の受給資格がない人々に対し基本的なヘルスケアを提供しているとのことで、その体験をレポートにしそれを送ってくれました。転載をお願いしたところ快諾していただいたため掲載することになりましたので是非読んでみてください。ちなみに、このクリニックは診察、処方薬は政府が負担するためすべて無料であるとのことです。昨今、生活保護の医療費に対して多すぎるとの批判がありますが、自由と自己責任の国であるアメリカでも、こと医療に関しては、国が無料で行っているということは興味深いことです。

＜あの伝説の医師がカムバック！そして、斎藤さん、結城さんいらっしゃい＞

以前、当院に勤務し、絶大な信頼と人気を誇った天田先生が10月末から毎週金曜日午後半コマ復帰しました。内科の難しそうな患者さんをお願いする予定ですので、よろしくお願いします。

また、欠員を埋めるべく、新しい看護師さんを迎えることができました。斉藤貞子さんです。長年、救護施設で Ns をされていたとのことで、当院ゆかりの患者さんも多数お世話になっていたようです。物静かな上品な方で、診療所にはあまりいなかったタイプ(笑)の方ですが、末永くよろしくお願いします。

結城陽子さんは、かつて、僕がお世話になっている病院に勤務されている人気抜群の看護師さんでした。しかし、彼女にはやりたい夢があり、皆に惜しまれつつ

病院をさりました。数ヵ月後に開かれた送別会の場で、今は慣れないクリーニング屋さんでアルバイトをしているとの情報をゲット。1 日でもいいから診療所で Ns として働いてくれませんかとお願いし、週 2 回、水、金と診療所に来ていただけることになりました。名前の通り、太「陽」のように明るいかたで、スタッフはもちろん、診療の患者さんともすぐになじんでいます。今後もよろしくお願いします。

＜最後に:生活保護の医療費について＞

最近、様々なメディアで「生活保護の医療費が多い」ということでの批判をよく聞きます。たいていの場合は、データの裏付けのない「生活保護受給者は、窓口負担がないため、頻回受診し、それが医療費を押し上げているのだ」いう印象論ものです。しかし、毎日、湿布をもらいに受診したとしても(笑)それほどの医療費かかかるものでしょうか？そんなハズはないと思われます。詳細は、別な時にお話したいと思いますが、そもそも病気や障害のため働けなくなった人や、高齢者が生活保護になっていること(高齢者世帯43%、傷病者世帯22%、障害者世帯 11%、2010 年)、また、内科的には脳血管障害を中心とした入院、糖尿病や透析患者の外来患者など高額な重症患者が多い傾向にあることが(生活保護をもらう以前に重篤化し、生活保護となったケースが多いと思われます)しばしば指摘されていますが、精神疾患による長期入院が大きな割合を占めていること、都市部では、ホームレスの人が救急搬送される場合は生活保護の医療扶助となること(都の医療扶助の 44%を占める)などが、医療費を大きくしている原因とおもわれます。もちろん、不要の頻回受診はやめるべきですし、当院としても、適正な医療が行われるように努力はしているつもりです(しばしば、患者さんに厳しいことをいうこともあります)。しかしながら、上記のような事情があることを理解し、不要な改悪がないことを願うばかりです。　（医師　鈴木　伸）

裂き織り始めました！

さて、最近デイケアで裂き織りチームを結成しました。まだ、初めて間もないチームですが、滑り出しはほぼ順調です。

毎日プログラムに参加するデイケアのメンバーに限らず、裂き織りをやってみたい、興味があるという方、またはやってみたいけれど、迷っている方たちを、診療所の先生方や関係者の方々を通じてご紹介頂きました。今のところは毎週木曜日の午前中の一時間を、裂き織りの時間と決めています。不定期ですが、ボランティアの方も混じり、和気あいあいとやっています。

裂き織りというものをご存じない方もいらっしゃるでしょうが、江戸時代に繊維製品が貴重だった冬寒い東北地方で、麻の葉っぱを裂き、織られた布で布団を作るのが起源だそうな。必要に迫られた創意工夫の織物が、今では引き出しにしまわれて日の目を見ないシャツの類いや、一年に一度たりとも着てもらえなかった古びた着物を、裂いて横糸となる裂き布に加工します。衣類を再び生活に生かそうという試みとその素朴な手法が、人々に愛される所以でしょう。

さて、今のところ私たちは、もっともシンプルで小さな織り機を使って、まずは「織り」に慣れてもらうところから始めています。

織りの作業は、基本的に個人作業になります。対人関係にストレスを感じやすい方でも、私たちは、それぞれの方が自分のペースで、作業を進めていけるように、サポートしていきたいと考えています。

出来れば将来的に、この裂き織りチーム内で出来あがる作品が「製品」となり、販売が出来るまでになれば作業をする上でも、励みになることでしょうが、それはもっと先のこと。まずは参加してくださる皆さんに、「美しいものを作ろう」「これは（裂き布は）きっと楽しいことになるよ」と伝えることから始めたいと思います。正直いえば、楽しいことなど、なかなか見つからないし、人生うまくいくこともあまりないし、そのうえ美しいものを求めるのはどうかなあと、個人的にも思えなくもありません。しかしそう思いつつ、ああでもないこうでもないと言いながら、何かを作っていくのも案外悪くないだろうとも思っています。だいたいにおいて何事もあせるとロクなことがないわけで、まずは毎週継続して参加してもらうこと、作品を丁寧に仕上げること、そして、安心して作業に打ち込める環境を整えていくことから進めていこうと思います。今は細々と、やっております。参加してくださる皆さんと手を動かしながら、話し合いながら、長く続けていければ幸いです。

応援してください。　　（船崎　葉子）

今年の“大運動会”

第 11 回目となった診療所主催の“大運動会”は、10 月 19 日に吉浜町公園で開催されました。今年も、大勢の町内の施設等の職員さん・利用者さんにご参加頂き、大盛況でした。休憩時間には、篠笛の演奏があり、通りすがりの人も公園に入って覗き込んでいました。

今回も参加の方に感想文をお願いしました。第一アルク松影の加藤さん、不老町地域ケアプラザの大塚さんです。なお、写真は加藤さんに提供していただきました。ありがとうございます。（編集部）

楽しい時間を過ごしました

アルク・ディケア・センター松影　職員
加藤　靖

快晴の 10 月 19 日、前日の雨が心配で迎えた朝、太陽は僕らの味方でした。

今年は、事前打ち合わせで演技種目の変更があり、大玉まわしと椅子取りゲームを新たに入れて紅白の玉入れをやめました。これは昨年籠を背負った僕には朗報でした。あの時の走り逃げた思い出とともに、今でも当時の筋肉痛が脳裏に浮かびます。

さて競技に入ったら嬉しい事にアルクの仲間がどんどん参加してくれました。

飴食い競争では口ばかりか顔じゅう真っ白にしてゴール目がけて突進～♪　車椅子競争では仲間を車椅子に乗せてのＵターン競争で、Ｕターンでのスピードや技が光り勝敗を左右しました。

次に職員対抗の選抜椅子取りゲーム。これはアルクから選ばれた３人、診療所チームから選ばれた３人での壮絶なゲームになりましたが､怪我も無く診療所チームが勝ちました。ここら辺までは筋書き通り（笑)。

大ボール回しも楽しくやり、最後に毎年一番力が入る大綱引きです、昨年はこれで白組が逆転優勝した種目。今年も全員で力を振り絞っての競技になりました。赤が勝ち、白が勝ち・・・。結果は・・・なんとまぁ勝負はつかず選抜チームを作っての１０人対１０人と言う所まできてしまいました。

紅組の優勝になりました。昨年の雪辱を晴らすパワー、最後に鈴木先生からいただいたトロフィー。今は各施設を廻って優勝の嬉しさを分かち合っています。

今年は途中で篠笛の演奏があったり、楽しい時間を仲間たちと過ごす事が出来ました。

僕もまた来年お手伝いできるように頑張っていきたいと思います。

今年も沢山の方々と出会う事ができました。来年またこのページで会えることを願っています。

○　●　○

ことぶき共同診療所デイケアの運動会によせて

大塚　るみ

去年の今頃、私はことぶき共同診療所の精神科デイケアに実習生として通っていました。去年は実習生として、今年はボランティアとして運動会に参加させていただきましたが、私にとって診療所デイケアは、とても居心地の良い場所で、実習が終わった今もボランティアと称して、時々デイケアのメンバーや職員に会いに行っています。この一年で新しいメンバーが数人加わりました。また以前からいたメンバーが作業所に通ったりと少しずつ変化がみられますが、メンバーが変わっても診療所デイケアの居心地の良さは変わりません。

前夜の雨がうそのように当日は晴天に恵まれました。去年と同様、運動会が始まる前から自分の年齢を忘れて子供のように走り回るMさん、公園に遊びに来ていた保育園児を追かけまわした揚句に転ばせて反省している姿は恒例だとか。最近食べられず体調を崩しているもう一人のMさんは見学だけと言ってやってきました。去年彼はデイケアに通い始めたばかりで、「運動会なんて行かない」と言っていたのを思い出します。あれから一年、彼にとっとデイケアはどんな場所になっているのでしょうか？　運動会の競技には消極的だけど、お昼のお弁当と参加賞をもらう時だけ前へ前へと出てくるＩさん。職員から注意されても一向に気にせず、にこにことマイペースなところは思わず笑いを誘います。飴喰い競走や綱引き等、どの種目も一生懸命だったＡさん、綱引きでは私は審判という中立的な立場ではありましたが、心の中では診療所の皆さんを応援していました（アルクの皆様ごめんなさい）。

まだまだ運動会の感想はつきませんが、参加者全員が楽しめることぶき共同診療所の運動会、来年も楽しみにしています。またお誘いください。

“診療室から”(30)

夏祭り

寿町ドヤ街の夏祭りが大好きだ。

今年も外来の合間に抜け出すことに成功。真っ青な夏空の下、路上に寝そべるおじさん達の右手のチューハイを横目に羨ましく見ながら、フリーコンサートへ。

さっそく購入した焼きそばを食べながら、ライブ気分を満喫する。「次の出演者は、〇〇です！」というアナウンスに、「マジかー！　生きてたのかー！！」と生きてたのか不明な人の代表みたいなおっさんが大声で叫び、高まる場のテンション。

最前列に踏み潰されそうになりながら横たわってたじいさんが、「にいちゃん、おれ、脳梗塞だから！」と言いながら震える手で差し出した財布に一枚しかない千円札を、しっかりとおひねり袋に入れる。

あっ。

居酒屋の出店で、アルコール性肝炎の患者さんを発見。次の血液検査で肝臓が悪くなったら、断酒の治療を始める約束をこの前したばかりだ。

持っていた黄金色のグラスをどぎまぎしながら背中に隠したから、今日のところは許してあげようか。年に一度のお祭りのドヤ街で飲むビールは、さぞかし美味しいだろう。

気づかぬふりして立ち去ろうとすると、そんなこちらの気持ちを十分察した上での一言。

「先生！　先生も一杯どう？」

なめやがって。

次回、採血の針をこっそり一番太いやつにしようと心に決めて、にやにやしながら診療所に帰る。

焼けたアスファルトの照り返しの中、サックスの音を乗せた涼風がドヤ街のビルの間を吹き抜けた。

（熊倉　陽介）

寿町関係資料室コレクション

【１】神奈川県社会福祉協議会「いわゆるドヤ街の福祉対策研究委員会報告書」（1965 年、全 27 頁）

寿町関係資料室は、来年 3 月で開設から 10 年となる。これまで関係者の方々から貴重な資料を寄贈して頂き所蔵している。同時に独自収集も行ってきた。他のドヤ街や野宿者に関する書籍も揃えているが、寿町のものについては、絶版のため入手困難であったり、図書館にもないレアな書籍・資料も多く所蔵している。これらは、大事にして後生に残すべき“知的遺産”だと思う。本コーナーでは、これらの資料について紹介したい。寿町への理解を深める一助となれば幸いである。

本報告書は、寿町ドヤ街について、その公的対策の必要性を提言した最初のものである。視点等に時代的制約があるとはいえ、社会福祉（特に地域福祉）の視点と方法を織り交ぜているところに特徴がある。委員長は、横須賀基督教社会館館長（当時）の阿部志郎氏であり、その他の委員は県市の社協職員・行政職員、中区民生委員の木下陽吉氏、国立療養所浩風園長の長井盛至氏（浩風園は結核療養所であり、後に南横浜病院となり、2008 年廃止）であった。木下氏は、簡易宿泊所組合の事務局でもあった寿町関係者で、長井氏はロータリアンとして「大岡川スラム」の問題に取り組んだ後、寿町とも関わった人である。

本委員会は、寿地区における「問題点を調査研究し、その福祉対策を企画立案すること」を課題としている。会合は、1964 年 12 月 8 日に第 1 回が開催され以後 5 回が行われ、翌年 3 月 11 日が最後であった。ただし、6 月 1 日に開館した寿生活館のことが書かれているため、報告書の発行はそれ以降ということになる。

人口や職業、住居、経済生活、売血、衛生と食生活、家庭と児童等に関して、地域診断を行った上で、最後に実施すべき対策が提言されている。国の政策的裏付けを得て、横浜市と神奈川県が協力して総合対策を取るべきこと、それは都市計画および港湾労働対策としても行われるべきこと、その他住民の他地域への分散、社会福祉行政とその他の部局のチームワーク、労働・建築・旅館・福祉などの不法行為の取り締まり、社会調査実施による対策が挙げられている。そして、最後に、セツルメント活動とその具体的なプログラムが提案されており、この部分が横須賀での実践を基盤とした最も阿部委員長らしい対策の提言といえよう。

ところで、ふと、なぜ県社協による委員会だったのだろうかという疑問が浮かぶ。本報告書をもとに、社協がセツルメント（隣保館）事業を行おうとしていたのだろうか。しかしその後、県社協がこの町で施設を作ることはなかった。本報告書の公表後、1965 年 12 月 10 日に開かれた神奈川県匡済会の評議員会・理事会では、寿町での保育所・生活相談所・健康相談所の開設計画が了承された。そして、1968 年に設置されたのは神奈川県匡済会寿福祉センターであった。

（寿町関係資料室）

レポート －健康格差　米国と日本－

北里大学看護学部４年　永野　優佳

San Pedro 6th street, LA に降り立った瞬間、尿や腐食した食べ物の臭いが漂っていた。寿町を思い出させる臭いだった。ここは米国でも一番のホームレス街であり、ここで生活する約30%が精神疾患を持っており、約 70%は薬物中毒者であるとの事。寿町に類似した状況であると感じ、社会から追いやられた人々が、自分たちの境遇を分かち合える者達の集う環境に居座らざる他ないという状況である事を改めて実感した。日中にも関わらず、色んな人が地べたに座り込み、ゴミ箱をあさっている人、酒を飲んでいる人、居場所を求め不満そうな顔でさまよっている人があふれていた。中でも印象的だったのは芝生の公園にたむろする人々だ。話によると、そこで薬物の取引から、薬物摂取等がくり広げられているとの事。警察によるパトロールも多く治安は随分安定したそうだ。ここではパトロールは薬物使用者・売買者を告発する為ではなく、薬物行動がエスカレートし他者に害を与える事がないよう取り締まっているのだそうだ。なぜ違法の薬物使用を了解してしまっているのか聞くと、牢屋に行ったとしても彼らの薬物中毒が改善する訳でもなく、釈放されても結局彼らの戻ってくる場はここしかなく元のさやに戻ってしまい、治安改善にならない事、そもそもそれだけの薬物利用者を収容できる空きももはやない事が事実にあり、それならば二次被害を最低限に抑えるしかない、という結論だそう。打ち回しによる感染症を防ぐため無料で薬物用針が医療系団体から支給されているとの事。本来子どもが遊ぶはずの公園が大人達の薬物売買や薬物摂取の場として使われてしまっているのは心苦しかった。

寿町が元々は日雇い労働者の町であった様に、ここは多くの問屋があつまる町だったそうだ。メキシコや様々な地域からアメリカンドリームを夢見て集まり、今でもその面影は濃く残り、道々に大きな問屋倉庫があった。そこで働き今も尚アメリカンドリームをあきらめずにいる方々の姿を見て、彼らにとっては元来た場所の生活よりは、ここでの生活の方が希望に満ちているのかもしれないと思った。

ここにある UCLA 看護学部が運営する URM では、一日 3 食の食事・シャワーが開放されており、先ほど記した様に、子どもが安全に自然とふれあい遊ぶ場所がないため、屋上は観葉植物や野菜など菜園が施されたテラスになっていた。クリスマス会などの催しものもあるとの事。この施設では薬物依存症者への 12 ヶ月更生プログラムが行われており、12 ヶ月この施設で働きながら薬物を完全に断ち切り、社会へ復帰して行くチャンスが与えられていた。ここのツアーをしてくださった Antonio もこのプログラム終了者で、終了後 assistant doctor の資格をとり、この URM で自分と同じ境遇の人々をサポートしたいと施設の職員として戻ってきた方だった。ここの施設長も、プログラム終了者の１人で、終了後 UCLA の修士課程まで終え、今に至るとの事。決して容易ではない依存症からの更生を成功させ、また人々の為になりたいと URM に勤める彼らの献身的な姿は、プログラム受講者に多くの希望をもたらしていると感じた。同じ健康格差をなくすため、法の隙間をなくすための取組みではあるが、寿とはまた違ったサービスの提供のしかたなのが印象的だった。その理由としても、保健医療サービスに差があり、日本の生活保護システムでは医療サポートを無料で受けられ、さらに月十数万の現金収入のある事実から無料での食事やシャワーのサービス発展が難しいという事がいえると思った。又、ボランティア精神・寄付の精神の根づくアメリカでこそ現実化出来る無料での health care service のあり方なのだなとも感じた。

他にも、健康保険を持たない人々に医療や法的サービスを無料で行っている施設を見学させて頂いた。入り口のセキュリティーは厳重で荷物チェックでカメラを没収された。色んな事情の方があつまる施設ならではの配慮なのだろうと思った。ここに来る人は約 3-5 分の診察のために 10 時間待たなければいけないとの事。あまりにも長過ぎる待ち時間に、待合室の人の表情は不満そうであった。大多数がヒスパニックで白人の姿は見られず、役員は決して親切とは言えない態度で、日本の役所を思わせる光景だった。日本と決定的に違うことといえば、そこには 10 カ国ほどの言語通訳が配属されていた。多民族国家であるアメリカの特徴であると思った。多民族国家化している日本にも早急に導入しなくてはいけないサービスであると感じた。一方、他にも問題点がある。ここでは保険を持ってはいないがアメリカ人であるためこうしたヘルスサービスが受けられる。San pedro の路上生活者もアメリカ人であることが多い。よって不法滞在者が受けられるヘルスサービスというのはまだ確立されていないとの事だ。サービスを提供してしまえば、不法滞在者を取り締まらなくてはいけない中で黙認しなくてはならなく、法にふれてしまう。又その人たちの人権をどう守ってくのかなどを考えると、問題が大きすぎ太刀打ち出来なくなってしまっているのが現状だそうだ。このような特定の人口内に広がる感染症や不健康行動のことを思うと、不法滞在者の多く抱えるカリフォルニア州の大きな課題であり、この先どう対応してくのか、法と健康問題の狭間が多くの葛藤を生んでいると思った。

米国、日本と、法の隙間に落ち本来保障されているはずの健康が保持されない現状を目の当たりにし、こうした人々へのあるべき支援は何なのか、日本の医療システムのあり方を改めて考えさせられた。見て見ぬ振り、自分とは違うと敬遠して野放しにする者が多い中で、URM や寿の様に全ての人に与えられるべき権利を支えている人に出会い、強い感銘を受けた。もともと途上国支援に興味があり医療職への道を選んだが、先進国ならではの健康格差問題を見て、途上国に限らず国内や幅広い地域で何か自分に出来る事が有るのではと視野が広がった。

寿町地域ニュース・あらかると
（’12年5月 ～10月）

【生活保護】親族の生活保護受給についてお笑い芸人が謝罪会見、小宮山厚労相が生活保護基準引き下げ検討を表明[5.25]／横浜市健康福祉局長・生活福祉部長、神奈川県保健福祉局長・地域保健福祉部長、川崎市生活保護・自立支援室長、相模原市地域福祉課長、神奈川県警察本部刑事部長・組織犯罪対策本部長が出席し「神奈川県生活保護不正受給等防止対策連絡会」が発足（会場 神奈川県警本部）[6.28]／厚労省「生活支援戦略」中間まとめで生活困窮者支援体系の確立と生活保護制度の見直しが打ち出される[7.5]／社会保障制度改革推進法で生活保護制度の見直しを明記[8.10]【住宅手当】厚労省が住宅手当制度(派遣切り等での住宅困窮者向け)の恒久化(2015 年度～)の検討開始[8.16]【孤立防止】横浜市会「孤立を防ぐ地域づくり特別委員会」新設(5.31)【簡易宿泊所】松影新館エレベータ設置工事[8 月]／「はまなす」(寿町 2-7-10)がオープン[9 月]【法外援護】パン券宿泊券、経過措置が終了し全廃となる[9 月末]【更生保護】県地域生活定着支援センターの援助(’10.12-’12.3 実績)で帰住先が決まった人の内、10 人(45.5%)が簡易宿泊所・無料低額宿泊所であった[9 月]

（寿町関係資料室）

診 療 所 日 誌 ‘12 年 6 月～‘12 年 10 月

6 月　梅雨なのに雨はあんまり降りません。

6 月 1 日　デイケアMさん、退院と同時にデイケア再通所予定だったが行かず、自宅に引きこもる生活始まる。
6 月 7 日　オウムの捜査か、私服の警察が沢山いる。
6 月 8 日　患者Ｔさん、診察室内で心肺停止となり、AED 使用し救急搬送。残念ながら亡くなる。
患者Ｏさん、飲酒の上 DOTS に来所することしばしば。暴行を受けたと警察を呼ぶ。
6月 20 日　職員Ｋさん､バイクで出勤途中に事故。打撲で足が腫れあがる。
6 月 28 日　歓迎会。久しぶりに中華街で。
6 月 30 日　デイケア、森本さんのコンサート。

7 月　今年の夏も暑いです。脱水です。

7 月 2 日　整形外科の大脇医師、山谷の活動でテレビ出演。
7 月 5 日　デイケアＴさん、調子が悪くお姉さんより診療所へ電話がある。
7 月 13 日　DOTS に来ていたＳさん、コロッケパンを喉に詰まらせ、亡くなる。実家に帰りました。
7 月 18 日　患者Ｅさん、入院させろと頑張る。救急車を呼んだり、受付にへばりついていたり。ここの所数回。
7 月 19 日　患者数 271 人。患者さんでごった返していました。お待たせしてすいません。
7 月 28 日～29 日　デイケア稲子へ川遊びとバーベキュー。去年の台風で川の流れが変わりましたが泳げました。

8 月　夏休み､学生さんが見学に沢山いらっしゃいました。いつか御縁がありますように。

8 月 4 日　入院を拒否していたターミナルのＫさん、自室で亡くなられているところを発見される。
8 月 11 日　カルテ番号 10 番のＳさん、入院先の病院でなくなる。
8 月 15 日　訪問看護の入っているＥさん､呼吸不全で蘇生行う。訪問看護師さんの呼びかけに「うるさいな～」と息を吹き返す。
8 月 22 日　スリップ中のＮさん､以前入院していた病院に措置入院になったと連絡あり。
8 月 24 日　11 日に亡くなられたＳさんの葬儀が通所していたことぶき福祉作業所で行われる。
8 月 30 日　愛知医大の学生さん３名見学に。
8月 31 日　横浜市立大学医学部の学生さん見学に。

9 月　最近､若い薬物の患者さんが多いです。

9 月 4 日　Dr.宮崎､パラリンピックのチームドクターで付き添いのため休診。
9 月 5 日　香川大学医学部の学生さん 2 名見学。以前診療所に顔を出していた高知大学Ｙさんの知り合いとか。
9 月 7 日　アルコールで妄想状態のＩさん、ヘルパーさんの働きかけもあり、やっとのことで入院を了解する。
9 月 21 日　せん妄状態のＹさん､入院先を決めるが数日前に行方不明に。町田で発見され、週明けに別の病院に入院となる。

10 月　新しい職員を迎えました。

10月 6 日　クリーンセンターにエアコン清掃をお願いする。
10 月 9 日　2 階の廊下のゴミ箱で異臭物あり。警察呼ぶ。
10 月 11 日　患者Ｓさん、Ｎさん、デイケアの裂き織り初参加。
10 月 13 日　DOTS に来ているＫさん。名前を書くのが遅いと並んでいる患者さんに殴りかかりそうになり、包丁を持って後からまたやってくる。職員に止められ帰宅。
10 月 19 日　第 11 回デイケア大運動会。秋晴れです。
精神症状のある透析中の患者さんの入院先さがしに苦慮する。
10 月 20 日　診療所入口に駐車禁止のポールを立てる。
10 月 26 日　看護師斉藤さん、勤務開始。天田医師、金曜午後再び勤務開始。
神奈川病院の方々、職員研修で見学に見える。
グッピーがやってきた。

（矢島　雅子）

医療法人
ことぶき共同診療所・鍼灸院ガイド

◇診療科目　精神科　神経科　心療内科
内科　整形外科　鍼灸

診療所

	9時30分	12時	14時	17時
月	休　診			
火	鈴木伸・宮崎・弓野	昼休み	鈴木伸・宮崎	精神科・神経科・内科
水	菊田・土屋		菊田・土屋	精神科・神経科・心療内科・内科
木	鈴木伸・大脇・土屋・熊倉		鈴木伸・大脇・土屋・熊倉	精神科・神経科・心療内科・内科 整形外科
金	田中・鈴木伸・土屋		田中・土屋・天田	精神科・神経科・心療内科・内科
土	鈴木伸・土屋	整形外科・精神科・神経科・心療内科・内科		

鈴木美奈子（エコー検査）土曜午前・月２回、三橋（整形外科）土曜午前・月１回、野本（循環器科）土曜午前・月１回

鍼灸院

（鍼灸院は予約制のため、お電話等で確認の上、ご来院ください）

	9時45分	13時	14時	18時
火	新井・佐藤	昼休み	新井・佐藤	
水	新井・富永		新井・富永	
木	新井		新井	
金	新井・佐藤		新井・佐藤	

○保険扱い

国民健康保険 各種社会保険 生活保護 障害者自立支援法（その他、医療福祉相談も受け付けています）

○心理判定

○寿町関係資料室

寿町にまつわる資料収集、調査研究を行う「資料室」を併設しています。

◇共同診療所・鍼灸院の所在地

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17
リバーハイツ石川町 1・2F

◇でんわとファックス

（045）651-2305（診療所）
（045）305-4322（鍼灸院）

◇e-mail info@kyoudouclinic.com

◇ホームページ

http://kyoudouclinic.com

2012 年 11 月 30 日現在